



親子でなにわ新発見!

おとなと子どもがともに楽しめる講座やイベント、施設を体験レポートします。

今回紹介するのは「海洋博物館 なにわの海の時空館」です。

海を散歩してみませんか?...の巻

冬なのに海?なんだか寒そうですが、ここは違います。暖かな館内にはお楽しみがいっぱい! イベントも満載で冬のお出かけにおすすめです。暖かな上着の下は薄着でどうぞ!

今回おじゃましたのは『なにわの海の時空館』です。ここは、大阪と海をテーマに学ぶことができる博物館。ドーム型の建物に太陽が反射すると少し離れた場所からでも確認することができます。外観だけでなく、内部も楽しい構造になっているので冒険気分が味わえそう。まずは、エントランスのある建物からガラスドームの中の展示棟までは海中道を通っていきますが、名前の通り海の中の通路です。天井にある丸いガラス部分からは運が良ければ大きな魚を見ることができるかもしれません。「夕方がおおすすめです」と、スタッフの方のウラ情報も。ドームの中は吹き抜けになっていて、ガラス越しに大阪湾の景色が楽しめます。海遊館や、天気次第では六甲山に淡路島も見えます。中心部には『浪華丸』が展示されています。この船は、江戸時代の『菱垣廻船』を実物大で復元したもので、ここに展示する前に大阪の海を実際に帆走させたということです。この船を取り巻くように1階から4階まで体験、展示コーナーがあります。まずはエレベーターで4階へ。ここでは天体を使って時刻を知る「ノクターナル」という道具の体験をします。案内スタッフに説明してもらいながらでしたが、時刻がわかったときはうれしくなっていました。3階では「川浚え」の体験がおすすめ。かなり重いので小さな子どもには難しいですが昔の人の苦勞がわかるかもしれません。2階は『浪華丸』へ乗船できる入口があります。出迎えてくれたのは船乗りさん(ちゃんまげです!)中に入ってみるといろいろなところに荷物を積めるようになっていて、その量や工夫に驚きます。見てさわって江戸時代を体感しましょう。あと、1階にはバーチャルシアター「海の映像館」「海の冒険館」があります。

大阪にとって海や川は切り離すことができないもの。時空館はそんな大阪の過去や未来を知ることのできる施設です。寸劇が楽しめる場所もありますから最初に上演時間をチェックしてからまわるのもいいですね。「クイズシート」を使いながらまわればさらに楽しめます。

年始には「餅まき」などのイベントもありますよ(下記参照)。ぜひおでかけください。

(写真・文 梅木智子)



1	1... 外観
	2... 海中道
2	3... 浪華丸
3	4... 菱垣廻船の復元 展示
4	5... ノクターナル 体験
5	6... 川浚え 体験
6	7... 浪華丸 船内

イベント

餅まき ~新春恒例の縁起イベント~

22年1/2(土)14:00~14:30

展示棟2階 浪華丸横
無料(入館料別)

なつかしのおもちゃで遊ぼう!

22年1/2(土)~11(祝)10:00~17:00

展示棟1階
無料(入館料別)

海洋博物館 なにわの海の時空館 <http://www.jikukan.or.jp/>

場所 〒559-0034 住之江区南港北2-5-20

電話 4703-2900 FAX 4703-2901

休館 月曜(祝日の場合はその翌日)

12/28(月)~22年1/1(祝)

費用 高校生以上600円

中学生以下、障害者(介護者1名含む)、
市内在住の65歳以上は無料

交通 地下鉄・ニュートラム「コスモスクエア」



おおさか歴史探訪 ③1

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

国産ビール発祥の地



年末年始はお酒を飲む機会が増えてきます。日本人は大のビール好きですので、今回は「国産ビール発祥の地」が大阪にあったというお話です。

日本で最初にビールをつくったのは幕末の蘭学者であったことが史料にみえますが、明治になって造幣寮(造幣局の前身)が大阪につくられると、ここに勤務する外国人などをめあてに、企業としてのビール製造がはじまりました。その人は渋谷庄三郎という代々綿問屋を営んでいた商人で、清酒の醸造や紡績業、回漕業もおこなっていました。新規事業の開発に意欲的で、大阪にいたアメリカ人の指導を受け、明治5年3月、「渋谷ビール製造所」を始めました。場所は現在の地名でいうと北区堂島浜1丁目、御堂筋の西側すぐのところ、堂島川に面したあたりです。ラベルは犬印のかわいデザインでした。

明治10年頃、大阪府下のビール生産量は年間250石(45キロリットル)程度だったようですが、そのほとんどが渋谷庄三郎の製造だったとのこと。ただし当時の日本人にはビールの苦味は好みに合わなかったようで、わずかに川口居留地や神戸の外国人、一部の洋食店などで飲まれる程度だったようです。そのため渋谷が死去した明治14年には、製造所は閉鎖となりました。少し時代を先取りしすぎたということでしょうか。

このようなことを多くの人々に知ってもらうため、大阪市の顕彰史跡に指定され、跡地には石碑と解説板が建てられています。

